

『演習 保育内容 環境—基礎的事項の理解と指導法—』モデルカリキュラム対応表

モデルカリキュラム「幼児と環境」における到達目標と本書の対応項目

＜全体目標＞

当該科目では、領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

(1) 幼児を取り巻く環境	
＜一般目標＞	
幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	
＜到達目標＞	本書の対応章
1) 幼児を取り巻く環境の諸側面(物的環境, 人的環境, 社会的環境, 安全等)と、幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。	第1・2章
2) 幼児と環境との関わり方について、専門的概念(能動性, 好奇心, 探究心, 有能感等)を用いて説明できる。	第1・2章
3) 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育(ESD)などの幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。	第1・2章, 第13章
(2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達	
＜一般目標＞	
幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。	
＜到達目標＞	本書の対応章
1) 乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を説明できる。	第1・2章 第4章～第7章 第11・12章
2) 乳幼児の物理的, 数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心, 理解の発達を説明できる。	第6・7章
3) 乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心, 理解の発達を説明できる。	第4・5章
(3) 幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等, 情報・施設との関わり	
＜一般目標＞	
幼児期の標識・文字等, 情報・施設との関わり	
の発達を理解する。	
＜到達目標＞	本書の対応章
1) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心, それらとの関わり方を説明できる。	第8章
2) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心, それらとの関わり方について説明できる。	第9・10章

モデルカリキュラム「保育内容「環境」の指導法」における到達目標と本書の対応項目

<全体目標>

領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1) 領域「環境」のねらい及び内容	
<一般目標>	
幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。	
<到達目標>	本書の対応章
1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。	第3章
2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	第3章
3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	第3章
4) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等とのつながりを理解している。	第11章, 第12章
(3) 領域「環境」の指導方法及び保育の構想	
<一般目標>	
幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	
<到達目標>	本書の対応章
1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。	第14章
2) 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。	第11章, 第14章
3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	第14章
4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。	第12章, 第14章
5) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。	第14章

(株)建帛社